

第四十七回 静岡県そろばんの日

清水地区 深澤好胖

昨年同様連日暑い日が続く夏となつた。特に八月十八日(木)の「静岡県そろばんの日」の前数日間は、三十六度を越える猛暑となり事務局では前日夕方まで作業が続き、ようやく準備が完了しました。特に出欠に関する楯の確認での出席から欠席へ、欠席から出席へと変更があり、作業の最終チェックや、当日大画面に写すために、グリーンフィールドの二石さんとの手順や名前(特に同じ呼び方で数種類ある名字)の確認・欠席者名の抜き出しなど大変気の抜けない作業の連続でした。当日も三十六度の猛暑ではありましたが、音響作業が順調に進んだため、作文・詩・謝辞のリハーサルを行う事が出来

ました。一部の役員は九時前から作業に入り、全体の集会が九時四十五分、打ち合わせの後、各自の担当業務に入った。参加人数は六〇六名でほぼ例年通りの受賞者である。また、司会が例年と違い、全体の事を充分承知している清水地区の澤田幸子先生に勤めて頂き、例年以上に式がスムーズに進み終了する事が出来ました。

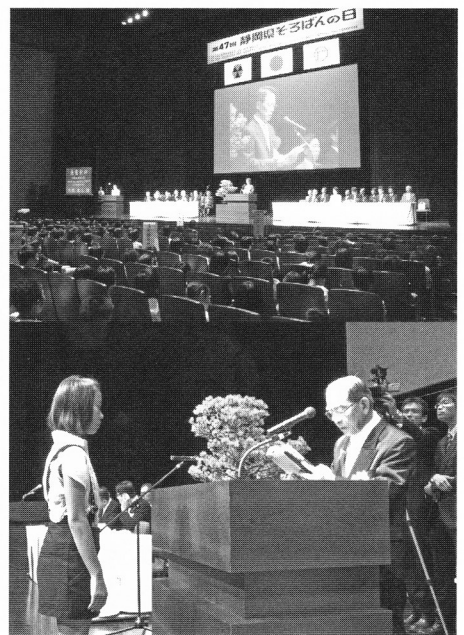
十二時三十分開式の辞から始まり、会長挨拶、来賓祝辞(特に本年は、お忙しい中、牧野聖修衆議院議員・上川陽子前衆議院議員など議員さんのご挨拶)や、そろばん訪米使節団長で訪米中の本部長理事杉山忠郎先生よりのメッ



セージも紹介されました。

その後、模範生徒の表彰に入り、賀茂地区から始まり北遠地区まで進みました。本年は、読み手の三名の先生とも、はっきり、ゆっくり読みましたので、楯を手渡す私達も、ゆとりを持って生徒達に、「おめでとう」の声を掛けることができました。読み手の先生方、緊張の中、お疲れ様でした。

次に、作文・詩の表彰および朗読、十段合格者の表彰、全日本珠算選手権大会入賞者の表彰と式は進み、受賞者



代表謝辞で閉式となりました。五分間の休憩の後、恒例のフラッシュ暗算とお楽しみ抽選会が行われ予定通り全日程を終了する事ができました。

姑に習う

北遠地区 三石テル子

時すでに四十三年が流れました。知らぬ間に嫁ぎ何もかもが無我夢中。そんな中での姑との生活、そして今日に至るまでの珠算へのかかわり、無心がゆえに続けられたと思います。何よりも私にとっては姑との生活が自分の存在を実のあるものにしてくれました。乳飲子を置いての研修旅行、行けるはずもない私に姑は「仕事だから行って

来なさい。」と、この言葉以来何の不安もなく仕事が出来た。九十六歳まで畑仕事を続け百歳にしても新聞をすみずみまで読み、週二回のデイサービス利用、一本の杖と共に歩み荒波にきざまれたなんとも言えない笑顔、病氣もせず皆と会話を楽しみ人に好かれ、これと言った認知症もなく静かに旅立ったのが二年前。四十三年が思い出さ